

銀天街でクイズ 小中学生が運営

来月8日日本番 準備に懸命

こともたちの学習を支援するNPO法人エンカレッジ(坂晴紀代表理事)が、キャリア教育と地域活性化を兼ねた「クイズフェスティバル2009 in 銀天街」を8月8日午後3時から、沖縄市学習塾で、イベント企画の運

営や企画書の書き方などをイベント会社の担当者から学んだ。講師は、株式会社エムスの前田寿一さんと玉那覇渉さんの2人。玉那覇さんは企画書を書くポイントとして「自分中心では絶対だめ。お客さんを楽しませるかを考えた方がいいじゃない」と心構えを説いた。「企画書を作るのは大変だけど、計画をたてて、出てくる問題を一つずつ消しておけばきっと良いイベントになる」と助言した。

講演後、子どもたちは実際

に企画書づくりに挑戦。相談したり、一人で考え込んだりしながら、イベント案を紙に書き出した。「クイズをウオークラリー方式にする」「琉球キングスと車いすの人も一緒にバスケットをする」など魅力あふれる案が次々飛び出した。

独自の案を次々と提案した大城聖美さん(安慶田中3年)は「本番のずっと前から企画してとても大変だとわかった。私たちのイベントも来た人が楽しめるように考えた」と話した。坂代表は「多くの人とふれあい、話を聞くことで、子どもたちが将来の

職業などを考えるきっかけになる。イベントには多くの人がきてほしい」と話した。